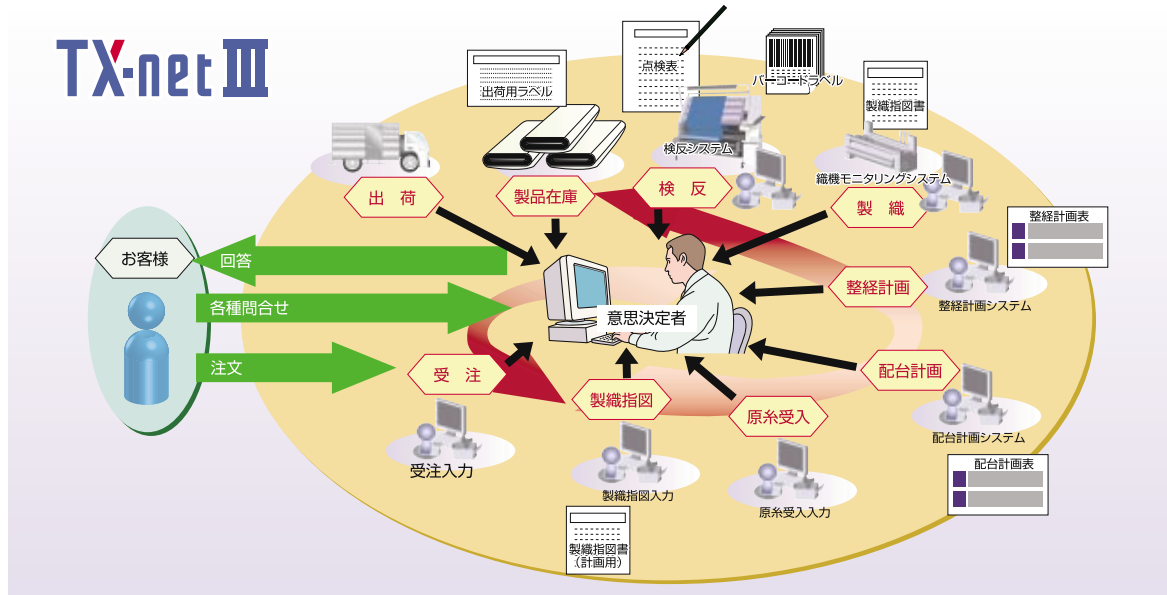


ディーアイエスソリューション「TX-netⅢ」

多品種小ロット短納期生産を支援



累計8,000台以上の織機に接続

ダイワボウ情報システムの子会社でシステム構築・ソフトウェア開発事業などを展開するディーアイエスソリューションは、織布工場向け生産管理システム「TX-netⅢ」を販売しています。仕入れから出荷までの工程を一元管理することでユーザーの多品種小ロット短納期生産を支援し、品質を向上させるツールとして多くの織布工場で活躍しています。

「TX-netⅢ」の原点は、ダイワボウが開発した紡績工程及び織布のモニタリング・管理システムです。1982年にダイワボウ情報システム(D I S)が設立されたことを契機に、織機のモニタリングシステムとして販売をスタート。国内外の織布工場で累計8,000台以上の織機に接続される実績を積み重ねてきました。その後、改良とバージョンアップを繰り返し、2005年から「TX-netⅢ」として販売しています。

「TX-netⅢ」の最大の特徴は「受注入力」「製織指図」「原糸受入」「配台計画」「整経計画」「モニタリング」「検反」「在庫」の各工程のモニタリングデータなどをサーバー上で一元管理することで、多品種小ロット生産や掛け替えを容易にすることです。それは生産する織物の品質向上に直結します。

品質向上にも直結 在庫管理も容易

配台計画では、織機への仕掛け状況をモニター上で確認しながら予定を組むことができ、織機モニタリングで集計した稼働状況を配台計画にフィードバックすることで正確な計画が可能です。出来高・ビーム使用量など自動集計するので、現場の負担も軽減でき、ビームの在庫管理も容易になります。入力系はガントチャート形式で表現するので、配台状況が分かりやすく、計画はドラッグ&ドロップ操作で簡単に変更することができます。また、各仕掛けの状態を色分けし、製織中、ビーム割当済、ビーム未割当などもひと目で判別できます。

また、検反システムで入力された検反結果は、生機在庫として計上されるため、データの二重登録など入力ミスも防ぎます。CSV出力も可能なので、エクセルを使ってA反率、生産集計など様々な用途にデータを活用できます。入力システムはタッチパネルシステムを採用。入力画面には検査中の反物をイメージしたマップが表示され、検反機と連動してスクロールするので該当箇所に触れるだけで欠点を登録することができ、欠点マップ

を作成するなど効率よくデータを蓄積することもできます。

他社のシステムソリューションとの互換性もありますので、導入企業がすでに運用している販売管理の基幹システムに「TX-netⅢ」の配台計画、モニタリング、検反システムをリンクすることもできますし、織機に搭載されているコントロールシステムと接続させることも可能です。



今後ますますの相乗効果に期待

近年、織機メーカーも織機にコントロールシステムを標準装備することが多くなりましたが、織機本体に比べてシステムは陳腐化するのが早く、織機はまだ現役でも、搭載するコントロールシステムやモニタリングシステムは最新のものに交換したいというニーズも増えてきました。ディーアイエスソリューションでは、こういったニーズにも対応しています。既存の織機のハードウェアを活用した形で、ホストシステムだけを「TX-netⅢ」に交換することも可能です。

ダイワボウとダイワボウ情報システムが経営統合したことで、ディーアイエスソリューションでは、これまで以上に繊維業界との距離が縮まりました。今後、ますます相乗効果を期待しています。

